



紙上診察室

久田 哲哉さん



Q

定期健診で非結核性抗酸菌症と言われ、再検査となり、不安です。どんな病気で、治療は必要ですか？
(女性・57歳)

A

抗酸菌は百種類以上あり、その一つに結核菌があります。それ以外は非結核性抗酸菌と呼ばれ、多くは水や土の中などに存在しています。これらに感染して起こるのが非結核性抗酸菌症です。せき、たん、息切れ、時に血痰が出るなど、症状は結核と似ていますが、発熱はさほどあ

非結核性抗酸菌症で再検査

りません。

最近、中年以上の女性を中心に増えています。その理由や感染症を起こすきっかけは不明です。結核の治療痕や慢性閉塞性肺疾患の合併があるなど、肺に弱った部分があると罹患しやすいと思われれます。肺に問題がない場合は痩せ形に多い傾向にあります。発症や進行の予防には栄養をとり、体力をつけることも大切です。

結核と違い、人から人への感染はありません。一般に進行がゆっくりで症状がほとんどない場合も多く、健診で初めて指摘

せきやたん、経過観察を

▼「紙上診察室」への相談
は〒100-8525 (住所不要) 東京新聞生活部。ファクス03(32695)6631。
電子メール seikatur@toky-onp.co.jp 住所、氏名、年齢、電話番号を明記(紙上では匿名)。回答は紙上のみ。

される人も多いです。病状がほとんど進行しないこともよくあり、むやみに心配する必要はありません。症状がさほど強くないければ定期的な検査で経過観察となるのが一般的です。

進行が著しい場合や症状が強い場合には、結核治療薬を中心に複数の薬を組み合わせて長期間服用します。完治は少なく、気長に治療を続けていく必要があります。(東京通信病院呼吸器内科部長)